

本調査執行ニ當リテハ豫メ三月十四日附市長名ヲ以テ各調査該當銀行會社工場代表者宛ニ調査依頼狀及ヒ調査趣意書ヲ發送シ置クヘキモ、尙之ノミヲ以テシテハ本調査執行ノ目的方法ニ就キ理解ヲ徹底セシムル點ニ於イテ不充分ナルノ憾ミアリ。殊ニヨノ種ノ調査ノ成功失敗ヲ決定スルモノハ一ニ懸ツテ傭主ノ態度如何ニアリトイフモ過言ニ非ス。而モ内容相當複雜ナル本調査ノ如キハ四六時中事務ニ忙殺サレツ、アル銀行會社工場ニトリテハ執務能率ヲ害フノ怖レナシトセス旁々調査員各位ハコノ點ヲ克ク考慮セラレテ、苟ニモ強制的乃至威壓的態度ヲ示スカ如キコトヲ嚴ニ慎ミ、常ニ禮讓的態度ヲ失ハス、本調査完成ノ爲メ協力ヲ懇願セラレ度

尙調査票配布ニ際シテ銀行會社工場ニ於ケル當該責任者ニ對スル應接方法ニ就イテハ全調査區ヲ通シテ統一ヲ圖ルノ必要ヲ認メ別ニ『職業婦人調査票配布心得』ヲ印刷シタルヲ以テ豫メ熟讀セラレ置カレ度

尙参考の爲調査票配布心得を掲ぐれば左の通りである。

第一、一般的注意事項

- イ 銀行會社工場ノ當事者ニ對シテハ常ニ懇願的態度、禮讓的言辭トヲ以テ接シ調査ノ方法手續ニ關シテハ懇切丁寧ナル説明ヲ爲シ苟ニモ威壓的乃至強制的態度ニ出ツル如キハ嚴ニ慎マレ度コト
- ロ 婦人從業者調査ニ直接關係ナキ事項ニ就イテハ決シテ言及セサルコト
- ハ 本調査ハ如何ナルコトアルモ個別的ニハ第三者ニ發表スルコトナク整理集計ノ上一本ノ數字トシテ公表スルモノニ付決シテ個人ニ累ヲ及ホス如キコト無キ旨ヲ徹底セラレタキコト

第二、調査票配布ニ際シテノ口上例示

『私ハ東京市役所統計課ノ者デスガ豫テ御依頼申上ゲテ置キマシタ婦人從業者調査ノ用件伺ヒマシタ。御多忙中誠ニ恐レ入リマスガ此ノ調査票甲號ハ銀行（或ヒハ會社工場）經營者ノ側カラ、又調査票乙號ハコチラデ勤イテ居ラヒル凡ベテノ婦人

ノ方々ノ御記入ヲ願ツテ此ノ兩方ヲ三月二十七日迄ニオ取經メノ上芝公園ノ東京市統計課ヘオ送リ願ヒタノデアリマス。ソシテソノ際コノ調査ノ趣旨ヲ一應御説明ノ上成ルベク早ク調査票ニ記入ノ上コチラノ係ノ方ノ手許迄提出スル様御言ヒ渡只今コチラニオ勤メノ婦人ノ方々ノ數丈ヶ調査票ヲオ預ケ致シマスカラコレヲ今日オ退ケニナル前ニ皆様ニオ手渡シ下サイマスヤウ御願ヒ致シマス。

ソシテソノ際コノ調査ノ趣旨ヲ一應御説明ノ上成ルベク早ク調査票ニ記入ノ上コチラノ係ノ方ノ手許迄提出スル様御言ヒ渡シ願ヘレバ尙更結構デス。夫レカラ調査事項ノ中ニ個人デ他聞ヲ憚ル様ナ箇所ガアツテハト懸念致シマシタノデ、凡ベテ記入濟ノ上ハ此ノ封筒ニ嚴封ノ上御出シ願フコトニナツテ居リマスカラノ旨皆様ニ御傳言願ヒマス

又市内ニ支店や出張所ガオアリデシタラ、其ノ分モ調査票ヲオ預ケ致シマスカラ御手數デモコチラデオ居ケ下サイ。ソシテオ取經メ下サマイマス様オ願ヒ致シマス。調査票甲號ハ本社一枚デ宜シウゴザイマス。

尙後デ御不察ノ點ガゴザイマシタラ統計課ノ方ヘ御電話下サレバ御説明申シ上グマス。

オ忙シイトコロヲ大變失禮致シマシタ。デハ宜シクオ願ヒ致シマス。』

第三、其ノ他ノ指示事項

- イ 銀行、會社、工場ヲ訪問シ本調査ヲ依頼スル場合ハ成ルベク當該主任者ニ面接シ、主任者不在ノ際ハ他ノ責任アル係員ニ交渉シ尙ソノ姓名ヲ控ヘ置クコト
- ロ 調査票乙號ノ所要枚數正確ニ判明セサル時ハ概數ニ適當數ヲ増シテ手交シ、後日不足追加等ノ手數ヲ省クヤウセラレ度シハ調査票乙號手交枚數ハ必ス各銀行（會社ノ工場）別ニ控ヘ置クコト
- ハ 支店、出張所、分工場等遠距離ニ在リ當該本社ニテ送達方ニ就キ難色アル場合ハ其ノ所在地、名稱及調査該當人員ヲ開キ置キ統計課ヨリ直送スルノ方法ヲ採ルコト
- ホ 調査票記入完了後之レヲ統計課宛送附テ滌ル向ニ對シテハ取締メ保管方ノミヲ依頼シ置キ後日蒐集ニ赴クコト

これより先十四日午前中、今回の職業婦人調査の趣旨を徹底せしめ、又本事業の内容を世人に周知せしむるの必要上『婦

人従業者の調べ』第一報と題する臘寫版刷の小冊子を市内各新聞社に發表しその後援方を依頼したところ、同日都下諸新聞は筆を揃へて之を報道し、爲めに調査執行上尠からざる利便を得た。(表紙見返し寫眞版参照)

斯くて三月十六、十七、十八、十九の四日間に亘り掛員總動員にて調査票及趣意書を該當銀行會社工場に直送する傍ら、百貨店、大銀行、大工場等職業婦人の集團的に勤務する箇所には特に主任者を派して事務擔當者に對し調査事務援助方を懇請して了解を求めた。而して調査票配布總數は當初の見込數より稍々超過し、調査票甲號九百九件、調査票乙號二萬一千百九十三件といふ結果を示した。

第二節 調査の成績

本調査の計畫當初に於いて最も危惧したことは、調査票の回収成績と記入の適否の一點であつた。調査の對象たる職業婦人の種類は極めて多岐多端に亘り、従つて年齢、教育程度に於いても千種萬様たるを免れない。加之、雇主側に對する照會事項には營業の機密に屬する事項も一二あり、殊に被傭者側の調査項目は大小四十一に上り、教養ある婦人であつても正確周到なる記入を爲すことは相當困難な仕事であつた。

然るに右の調査當局の危惧は幸ひにして杞憂に終つた。即ち調査期間滿了の三月二十七日より約一箇月間調査票蒐集期間を置き四月三十日締切りたる結果は、甲號八百三十四票、乙號一萬六千百九十二票であつて、回収成績前者に於いて九割二分弱、乙號に於いても七割六分強といふ本邦此の種調査に未だ曾つて見ざる好成績を收めたのである。且一萬六千餘を算する多數職業婦人を取扱つた調査事例は世界に於いても稀有である。

調査票回収の點に就いては以上の如き豫期以上の好成績を収めたのであるが、更に最も懸念した乙號調査票即ち婦人從業者側の記入成績を見るに、家庭關係に屬する事項の成績最も良好であつて九割八分九厘、換言すれば殆んど満點に近き

卷之三

完全なる記入を示し、次に勤務關係に於いても八九割の成績であつて、最も困難を豫想した生計の關係に於いてすら七八割といふ好結果を収めた。

乙號調查票記入成績

以上の調査票蒐集事務の完了を以つて調査事務に一段落を告げたるを以て、取り敢えず關係各方面に左記の如き禮状を差出した。

拜啓新綠の候愈々御清適之段奉賀候

陳者先般來「東京市内會社工場婦人從業者調査」施行に關しては御繁忙中にも不拘多大の御援助を賜り候處御蔭を以て左記の通り斯種調査には未だ曾つて類例なき好成績裡に蒐集事務を完了仕候是偏に各位の熱誠なる御協力と御指導御督勵に依るものと奉深謝候尙整理集計並びに編纂事務に就いては萬全の注意を以つて之に當り本調査をして有終の美あらしむると共に各位の御期待に背かざる様念願不^レ次第に御座候先は右乍略儀以書中御禮申述度如斯御座候

昭和六年五月五日

東京市長 永田秀次郎

殿

追而御参考迄に調査票蒐集狀況御報告申上候

婦人從業者調査票蒐集成績四月三十日現在

| 種類 | 配布總數 | 回収總數 | 蒐集成績 |
|------------|--------|--------|-------|
| 調査票甲號(業主) | 九〇九 | 八三四 | 〇・九一七 |
| 調査票乙號(被傭人) | 二一、一九三 | 一六、一九二 | 〇・七六四 |
| 合計 | 一一、一〇一 | 一七、〇二六 | 〇・七七〇 |

第四節 整理集計並びに編纂

調査票蒐集事務は以上を以て無事完了を告げたるを以て、更に其の審査、整理、集計の第二段階に進んだ。即ち甲、乙兩調査票總數一萬七千二十六票に就き一々仔細に記入內容の審査を行ひ、更に甲號に在つては産業分類中分類を基準として十八項目の集計を行ひ、乙號に於いては四十二職業別分類を基礎として四十一項目を集計した。

而して、集計事務の進捗に伴ひ隨時其の結果を要約して謄寫版刷小冊子となし、左記の如く前後四回に亘り關係各方面及び都下新聞通信雜誌社に配布した。

職業婦人の調査 速報其の一 ～家庭關係～ (昭和六年八月一日發行)

職業婦人の調査 速報其の二 ～生計關係～ (東京市の狀況第一三六號)

職業婦人の調査 速報其の三 ～勤務關係～ (昭和六年九月十九日發行)
(東京市の狀況第一四〇號)

職業婦人の調査 速報其の四 ～雇主側の調査～ (昭和六年九月廿六日發行)
(東京市の狀況第一四一號)

斯くして調査着手以來約六箇月にして集計製表全く完了を告げたるを以て第三段階の編纂事務に移り、爾來銳意其の完成を急ぎ茲に漸く上梓公刊の運びに至つたのである。

第二編 職業婦人の實相

第一章 身上に關する事項

一 八割は家計補助のため——就職の目的、言葉を換へていへば就職するに至つた動機には色々あることだらう。家のため、自分のため、さては社會のため等々。

上の表によつて見るに、家計補助のためといふのが、全體の七割七
のある。

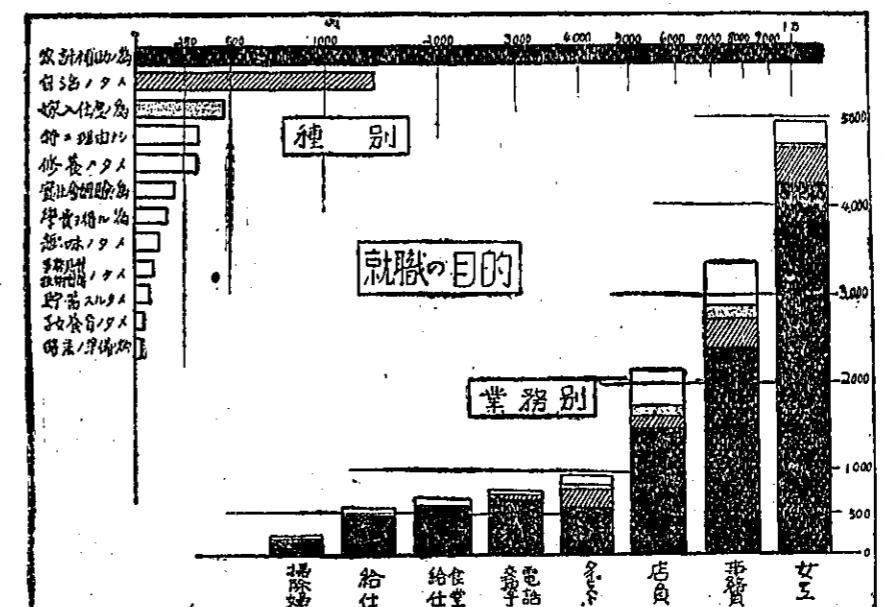
その次が自活のためで約一割を占める。これらを除いては、あとは數へるに足りないが、その中では嫁入支度のためといふのが比較的に

多い。

子女や弟妹の教育のために働くものといふもあるが、その数は極く少い。

修養や趣味のためといふを除けば、實社會經驗のためといふのと、職業婦人を希望してといふものとが、やゝ彼女の社會意識の目覺めをば物語つてゐるといふことが出來よう。けれどもその数は全體の二分弱に過ぎない。

二 業務別に觀たる就職の目的——就職の目的又は動機については職業の異なるによつて自ら相異するものであらふといふことは想像に難くないところであり、事務員やタイピストに於いては、家計補助のためには違ひながらうけれども、とも角も實社會經驗のため又は將來のため等といふのが比較的に多いのである。



業務別に觀たる就職の目的

| 目的別 | 女工 | 事務員 | 店員 | タイピスト | 交換手 | 給仕 | 給食室 | 案内係 | 掃除婦 | 雜役婦 |
|----------|------|------|------|-------|-----|------|------|------|------|------|
| 總 | 四、九三 | 三、三七 | 二、一五 | 六、三六 | 七、一 | 一、一〇 | 一、一〇 | 一、一〇 | 一、一〇 | 一、一〇 |
| 家計補助ノタメ | 四、三〇 | 二、一〇 | 一、四〇 | 五、一五 | 六、九 | 一、一〇 | 一、一〇 | 一、一〇 | 一、一〇 | 一、一〇 |
| 自活ノタメ | 三、一 | 一、一 | 一、一 | 一、一 | 一、一 | 一、一 | 一、一 | 一、一 | 一、一 | 一、一 |
| 嫁入仕度ノタメ | 三、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 |
| 貯蓄スルタメ | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 |
| 小遣取リノタメ | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 |
| 学費ヲ得ルタメ | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 |
| 子女養育ノタメ | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 |
| 弟妹教育ノタメ | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 |
| 技術習得ノタメ | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 |
| 事務見習又ハ | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 |
| 修養ノタメ | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 |
| 社会経験ノタメ | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 |
| 趣味ノタメ | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 |
| 将来ノ準備ノタメ | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 |
| 其ノ他 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 |
| 特ニ理由ナキモノ | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 |
| 合 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 | 一、九 |

二 業務別に觀たる戸主又は夫の職業——次に主なる業務別に、戸主又は夫の職業を觀よう。

まづ女工については、無業を除いては工業に屬するものが断然多い。總數四千八百九十人の中一千九百十一人である。その半分が商業で、更にその半分位が農家の子弟であることを示してゐる。公務、自由業に屬するものや商業に屬するものの方が、農業に從事するものよりも多いといふことは一寸意外に思はれるところであらう。

事務員の場合には、勤人が一番多い。三千五百九十六人のうち一千四百七十七人にして、三分の一を占める。

店員では、商業も公務、自由業も工業も殆んど似てゐる。一千二百二十五人のうち五百人前後である。

業務別に觀たる戸主又は夫の職業

| 業務別 | 總數 | 原産業 | 工業 | 商業 | 交通業 | 公務 | 自由業 | 使用人 | 有業者 | 其他ノ | 無業 |
|-------|-------|-----|-------|------|-----|-------|-----|-----|------|------|------|
| 總数 | 四,六三九 | 現業 | 二,七五七 | 二,八一 | 四三 | 三,七三六 | 四 | 四一〇 | 三,三〇 | 一,〇四 | 一,〇四 |
| 女工 | 四,六〇 | 現業 | 一,九二 | 一八〇 | 一八 | 四三 | 四 | 一九 | 一九 | 一九 | 一九 |
| 事務員 | 三,五六 | 会社 | 四五五 | 六七 | 一五九 | 一五九 | 二 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 |
| 店員 | 二,三五 | 現業 | 三五 | 三五 | 三五 | 三五 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| タイピスト | 一六六 | 現業 | 一六六 | 一六六 | 一六六 | 一六六 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 交換手 | 一七七 | 現業 | 一七七 | 一七七 | 一七七 | 一七七 | 一〇 | 一〇 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 食堂給仕 | 一〇六 | 現業 | 一〇六 | 一〇六 | 一〇六 | 一〇六 | 一五 | 一五 | 一五 | 一五 | 一五 |
| 給仕 | 一〇三 | 現業 | 一〇三 | 一〇三 | 一〇三 | 一〇三 | 一五 | 一五 | 一五 | 一五 | 一五 |
| 掃除婦 | 一〇四 | 現業 | 一〇四 | 一〇四 | 一〇四 | 一〇四 | 一五 | 一五 | 一五 | 一五 | 一五 |
| 雜役婦 | 一〇四 | 現業 | 一〇四 | 一〇四 | 一〇四 | 一〇四 | 一五 | 一五 | 一五 | 一五 | 一五 |
| 其他 | 一〇〇 | 現業 | 一〇〇 | 一〇〇 | 一〇〇 | 一〇〇 | 一五 | 一五 | 一五 | 一五 | 一五 |

右によると、女工を出す家庭といふものはやはり工業に關する職業を持つたものが多いといふことがわかる。また給仕掃除婦、雜役婦なども、同様に工業に關する家庭から來るものが多い。ところが、事務員やタイピストに於いては、無業を除けば公務、自由業の方が多い。店員に於いては、甚だ面白い現象であるが、商業も工業も公務、自由業も殆んど同じ位で相平均してゐる。

これによつて觀ると、家の職業とほど相似たる勤務先を選ぶものゝやうである。

第二節 配偶關係と子供

一 配偶關係

(一) 有夫者は僅かに一割二分——未婚者は總體の八割三分餘を占めてゐる。既に結婚の経験を持つたものといへども、その後破鏡の夢き目に遭つたり、または夫と死別したりして、獨り棲みの止むを得ざるに至つたものが可成りにある。この激烈な生活戦の中で、雄々しくも獨立してやつてゆくといふことは、如何に難いかなである。しかも既婚獨身者の三分の二が、寡婦なのである。かくて、獨身者は總體の八割八分にして、夫を有するものは、僅かに一割二分に過ぎない。

婦人從業者の配偶關係

| 配偶關係 | 實數 | 割合 | 配偶關係 | 實數 | 割合 |
|------|------|-----|------|-----|-----|
| 未婚者 | 三,六八 | 八・四 | 生別者 | 三〇四 | 一・六 |
| 既婚者 | 二,六七 | 六・七 | 死別者 | 一八五 | 三・六 |
| 有夫者 | 一,八六 | 二・六 | | | |

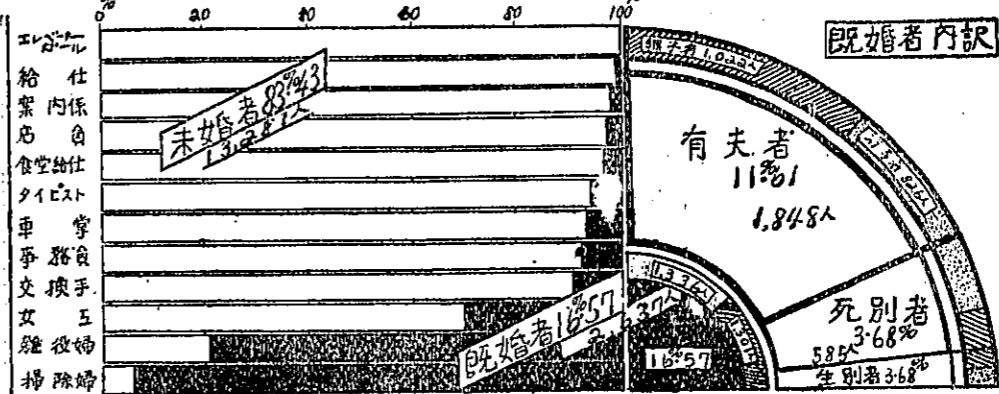
未婚者の多いのは、前にも述べたやうに十六歳から二十五歳迄、殊に二十歳未満のものが一番多いといふこととも符合するのである。

既婚者は一割七分であるが、この中で死別者即ち夫と死別したる謂はゆる寡婦が、百人について三人半といふ割合になつてゐる。生別者、すなはち離婚者はその約半分である。

(1) 職業と配偶關係——職業の性質から特に未婚者を探る、といふことは考へられるところである。また既婚者ともなるべく年若くして、餘りに家庭的別とするときは、給仕、案内人が多いところである。その次は店員、タイピスト、車掌、事務員、交換手、女工といふ順序になつてゐる。

今業務別にこの未婚者の割合をみると、エレベーターガールの百パーセントをうしても華やかな商賣のために未婚者の方がよからうし、タイピストや事務員などは、やゝ智能的なものであり學校出が多く、従つて獨身者が多いわけであらうし、車掌はその性質が激務のために未婚者を好んで採用であらう。かうなつて來ると、殆んど總べての職業が未婚者を要求するといふことになつて來る。それがためか、交換手や女工などは比較的に年齢が若いものが多いにも拘はらず、未婚者の割合は却つて比較的に低いといふ結果になつてゐる。

配偶關係



業務別に觀たる未婚者の割合

| 業務別 | 総数 | 未婚者 | 割合 | 業務別 | | | |
|-----------|------|------|--------|-----|-----|-----|-----|
| | | | | 車掌 | 事務員 | 交換手 | 女工 |
| エレベーターガール | 10K | 10K | 100.00 | 100 | 六 | 三・四 | 一・三 |
| 内保仕事 | 六三 | 六〇 | 九・八 | 五・七 | 三・四 | 一・七 | 一・四 |
| 案内係 | 三〇四 | 三〇一 | 九・九 | 一・〇 | 一・〇 | 一・〇 | 一・〇 |
| 店員 | 三、三六 | 三、三六 | 九・九 | 一・〇 | 一・〇 | 一・〇 | 一・〇 |
| 食堂給仕 | 二、三五 | 二、三五 | 九・九 | 一・〇 | 一・〇 | 一・〇 | 一・〇 |
| タイピスト | 一、〇六 | 一、〇六 | 九・九 | 一・〇 | 一・〇 | 一・〇 | 一・〇 |

二 子 供

(1) 子供の有無——配偶關係に次いで子供の有無を調べねばならない。まづ大體が未婚者であるからして、當然に子無き者が、殆んど大部分を占める。子供を持つものの數は僅かに一千三百三十六人(全體の八分)に過ぎない。子供を抱へたものうちで、寡婦の數は有夫者の半分に餘る。夫と生別したもの、いはゞ離婚者の數は案外に少い。(九十二人) 小供を抱へて夫と別々に棲むといふこと、流石にそういう人は少い。

| 総数 | 未婚者 | 有夫者 | 生別者 | 死別者 |
|------|------|------|-----|-----|
| 三、九八 | 一、〇六 | 一、〇六 | 一・〇 | 一・〇 |
| 一、〇六 | 一、〇六 | 一、〇六 | 一・〇 | 一・〇 |

次に子供數を見ると、最高は七人である。これが最高のレコードだが、案外少いとも思へる。けれどもまた考へてみればそんなに多くの子供があつて、外に出て働くことは、困難の極みであらう。

子供數からみると、子供數一人のものが、やはり一番多く、全體の半分を超える。子供二人のものが、その半分、三人のものがそのまた半分、といふ工合に幾何級數的に少くなつてゆく。

七人からの子供を抱へたものゝ一人は女工で、もう一人は雑役婦である。しかもその一人は有夫者であるが、他は寡婦である。何んといふ悲惨なことだらう。

婦人從業者の子供數

| 子供數 | 總數 | 別 | | | | | | | 無子者 |
|------|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| | | 一人 | 二人 | 三人 | 四人 | 五人 | 六人 | 七人 | |
| 一 | 三九五 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 二 | 三三六 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 三 | 三三五 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 四 | 三三七 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 五 | 三三八 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 六 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 七 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 八 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 九 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 十 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 十一 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 十二 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 十三 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 十四 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 十五 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 十六 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 十七 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 十八 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 十九 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 二十 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 二十一 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 二十二 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 二十三 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 二十四 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 二十五 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 二十六 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 二十七 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 二十八 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 二十九 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 三十 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 三十一 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 三十二 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 三十三 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 三十四 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 三十五 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 三十六 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 三十七 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 三十八 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 三十九 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 四十 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 四十一 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 四十二 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 四十三 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 四十四 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 四十五 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 四十六 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 四十七 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 四十八 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 四十九 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 五十 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 五十一 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 五十二 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 五十三 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 五十四 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 五十五 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 五十六 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 五十七 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 五十八 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 五十九 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 六十 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 六十一 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 六十二 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 六十三 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 六十四 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 六十五 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 六十六 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 六十七 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 六十八 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 六十九 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 七十 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 七十一 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 七十二 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 七十三 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 七十四 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 七十五 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 七十六 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 七十七 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 七十八 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 七十九 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 八十 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 八十一 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 八十二 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 八十三 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 八十四 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 八十五 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 八十六 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 八十七 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 八十八 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 八十九 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 九十 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 九十一 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 九十二 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 九十三 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 九十四 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 九十五 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 九十六 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 九十七 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 九十八 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 九十九 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 一百 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 一百零一 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 一百零二 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 一百零三 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 一百零四 | 三三九 | 一 | 三 | 三 | 二 | 三 | 四 | 三 | 二 |
| 一百零五 | 三三九 | 一 | 三 | | | | | | |

女事店交食給雜物販賣事務
堂換ビ給ス
内除役ガ
ル係掌婦婦仕仕手ト員員工
總數
自宅以外
割合

第五節 年

卷之三

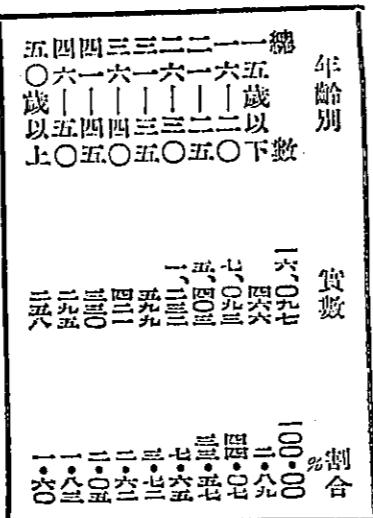
自宅以外より通勤するものの集合

一 業務別より離れる住居——自家以外より通勤するものを業務別に観るといふことは一寸興味をそそぐところであらう。

くは間借りである

次は雑役婦と掃除婦とであるが、その多くはやはり間借である。掃除婦では親類寄寓などが多い方である。その次はタイピスト。これは親類寄寓が非常に多いことに気がつく。女工では寄宿舎が間借の次である。交換手、店員などは比較的に少い。

一年齢別——花ならば盛りともいふ十六歳から二十五歳までの、若い娘さん達がその大部分を占めてゐる。全體の七割八分に當る。そのうちで、二十歳前のが、二十歳後のものよりもはるかに多い。前者は四割四分、後者は三割四分。その結果は或ひは大方の豫期に反してゐるかも知れない、職業婦人といふべく餘りにも若過ぎるやうに思はれる。尤



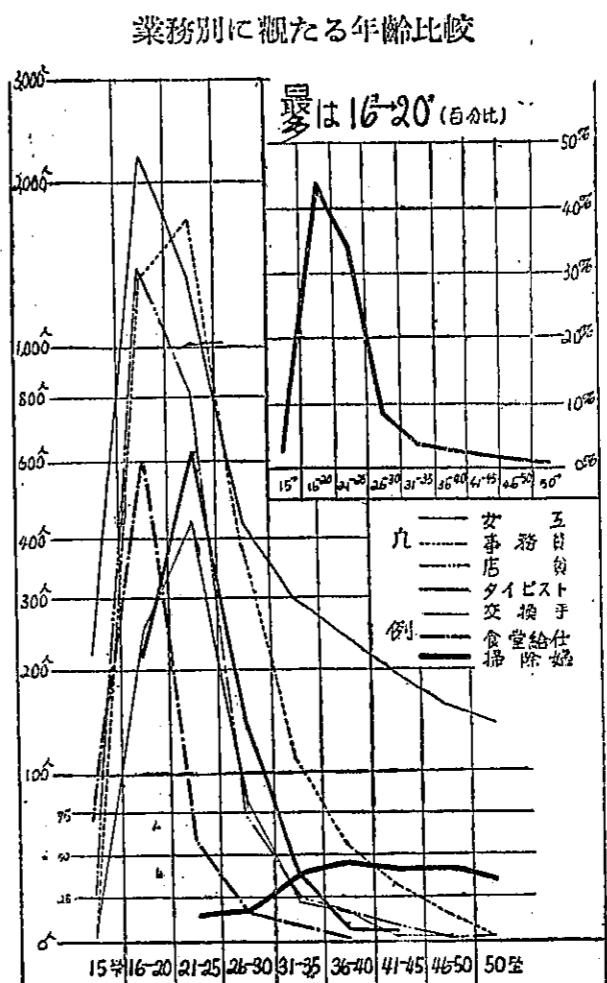
も、これには全體の半分以上を占めるところの女工群がいて、二十歳以下のものが最も多いといふことにも基因するのであらう。

これが就職生歯に就り、まことに五年間が、やはり一番多い。全體の七割三分を占めてゐる。これによつても大體に二十歳前が多いといふことがわかる。これは小學校を出てから嫁入り前の年頃である。これらの中若い娘さん達が、目下のところいはば婦人産業軍の中堅をなしてゐるといふのである。

は實社會經驗のため、といふのだらうか。否！　彼女らの殆んど全部が、「家計補助のため」なのだといつてゐる。(就職目的の項参照)

次いで、二十歳から二十五歳までのものが、その餘の半分以上を占める。それから年齢が上るに従つて、その數は少くなつてゆく。五十路を超えてのものが、なほ百人につき一人半の割合で在る。人生の行路に行き暮れて、いまだかくも巷に出でゝ働くかねばならないのか。しかもその多くは掃除婦や炊事婦である。彼女等こそ華やかなる職業婦人の名に背いて、蔭に隠れた働き手なのである。

二 職業と年齢——次に、年齢をば業務別に觀てみよう。



番多い。ところが、業務の性質が更に下つて、むしろ純然たる肉體的労働に服する掃除婦や炊事婦などに於いては年齢は、逆に飛び上つて、四十歳前後といふことになつてゐる。

一番年若い十五歳以下のものと、最年長の五十歳以上のものとを見よう。

十六歳未満のもの、すなはち小學校を卒立つたばかりのものが大變に目につくものに女工と食堂給仕とがあり、

第六節 教育程度

一 小學校程度が六割七分——全然學歴の無いといふのが、いままほ百五十三人もありたどいふことは一寸異様に感ぜられるところである。學歴を有するものを大別すると三つとなる。すなはち小學校、中等學校、大學及び専門學校といふことになる。この中で小學校程度のものが最も多くて、全體の六割七分を占めてゐる。

この小學校程度といふものゝ半分以上が、尋常小學校である。これが全部を通じて一番に多いのであつて、全體の三割七分を占める。

| | | | |
|----------|-----------|-------------|-----------|
| 一、總學歷數 | 二、小學全然學歷數 | 三、中等實業常程學歷數 | 四、大學專門合校者 |
| 一、實數 | 二、占一百分之七 | 三、占一百分之四 | 四、占一百分之九 |
| 一、占一百分之七 | 二、占一百分之八 | 三、占一百分之三 | 四、占一百分之九 |
| 一、占一百分之七 | 二、占一百分之八 | 三、占一百分之三 | 四、占一百分之九 |
| 一、占一百分之七 | 二、占一百分之八 | 三、占一百分之三 | 四、占一百分之九 |

更に高等小學校程度のものゝ數は、中等學校程度のもの全部に

かくて中等學校程度のものは全體の三割を占めるのであるが、このうち三分の一が高等女學校である。實科と商業とで以つて、更にその三分の一に當つてゐる。

大學、専門學校程度のものは如何。これは全體の一・三七%に過ぎない。即ち百人について一人と少しであるといふのは餘りに

第一章 身上に關する事項

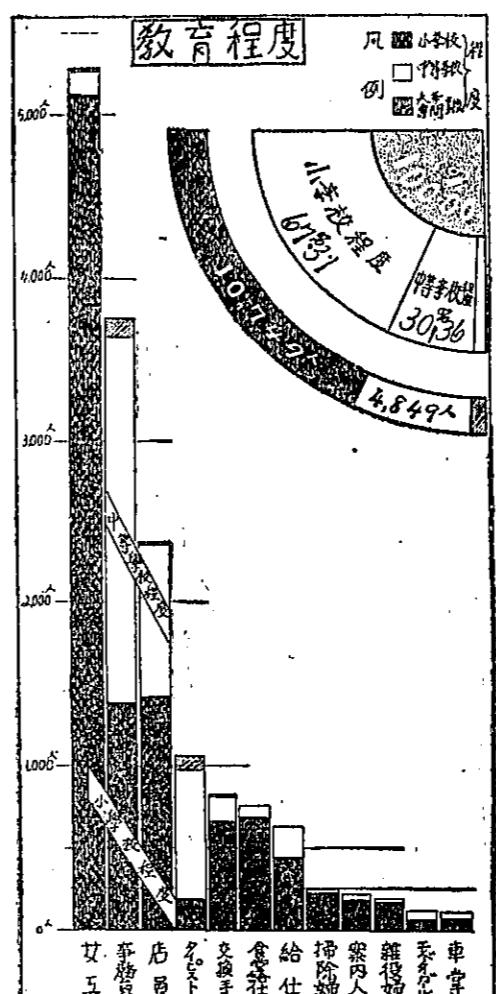
割合は〇・九六%で、大學専門學校のものが一・三七%で、最も近い数であるといふのは面白い對照ではあるまい。

か。

なほ右の表中には、その學校の卒業生計りでなく、在學又は半途退學のものをも含むものである。

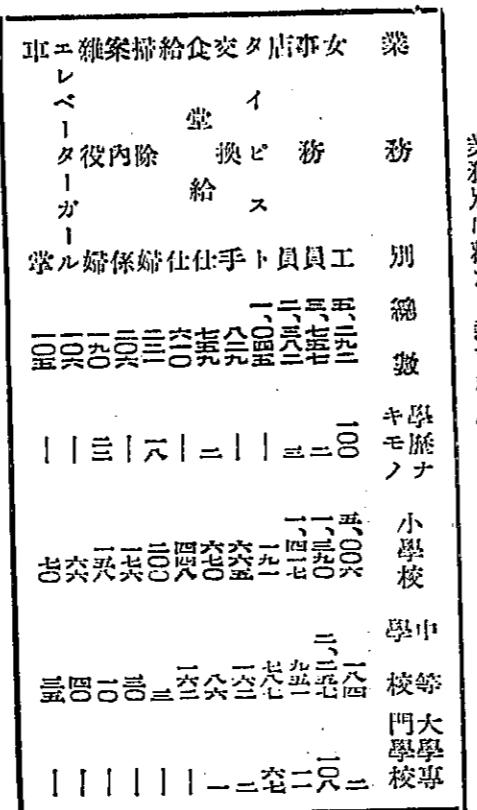
二 業務別に觀たる教育程度——職業と年齢とは相當に關係があるといふことは先きにも述べたところであるが、こゝに云ふ教育程度にもまた同様なことが云へるであらう。現在のところ、未だ高級の學校を出たものの數が割合に少いといふのは婦人の職業戰線には未だ知識ある人を要求してゐないのであらうか。または知識ある者が街頭に出ることを好まない

のであらうか。とにかく業務別に教育程度を見るといふことは可成りに興味あるところである。



事務員に於いては、中等學校が小學

右によつてみると、まづ小學校程度のものが大體に於いて多い。けれどもまた中には中等學校の方が多いといふものもある。いはゆるインテリ向きの職業たる事務員やタイピストに於いて特にその傾向が見えるのである。



を、といふ工合に、そこに一定の傾向が窺はれるのである。

業務別に觀たる小學校と中等學校との總數に對する割合

| 業務別 | 小學校 | 中等學校 |
|-----------|-------|-------|
| 業務別 | 四・五% | 三・四% |
| 女工 | 三・九% | 三・一% |
| 事務員 | 五・四% | 元・九% |
| 店員 | 一・八・一 | 一・七・三 |
| タイピスト | 一・八・一 | 一・九・五 |
| 交換手 | 合・二 | 一・九・五 |
| 食堂給仕 | 六・二 | 一・三 |
| 車掌 | 一・七 | 三・三 |
| エレベーターガール | 一・九・五 | 三・七 |

これによつて觀ると、小學校の多いのは、女工、掃除婦、給仕、案内係等の如く比較的に筋肉労働に從事するものであり、これに反して中等學校程度はタイピスト、事務員、店員等の如き技能的な職務に從事するものである。

第七節 趣味

百人百様、千人千様の趣味の世界を統計に寫し出すといふことは容易なことではない。けれどもこれはまた我等の知り度いと思ふところではないか。

これを文學藝術、手藝、音樂、稽古娛樂、及び運動の五つに大別して見る。

いま、その各々について述べてみるに、

一 文學、藝術——文學、藝術と敢へて嚴めしいふまでも無い。要するに詩歌、俳句を作り、繪を描き、または美術を鑑賞するといふ程度である。たゞ漠然と「讀書」と云ふものがやはり一番多く、全體の三割一分に當る。この「讀書」をば職業別にみると、やはり事務員(二千四百四人)と店員(一千三百八十一人)が比較的に多いのに反して、女工にいたつては總數の割には餘りにも少い。(一千八百二十八人)

この「讀書」の中には、聖書研究と朗讀會とを含んでゐる。または著作や語學などといふものもある。

二 手藝——手藝は婦人の生命である。この中では、裁縫又はお仕事といふのが、やはり多い(四百七十六人)。人形造りや造花などをも含めたる手藝がこれに次ぐ(三百八十人)その他、編物や刺繡なども多い方である。

三 音樂——音樂と單に記入したものが多い。このなかには洋樂を多分に含んでゐるのであらう。和樂の方では一々に種類を掲げたものが多いに拘はらず、洋樂の方ではそつて無いからである。この「音樂」といふのが先きに述べた「讀書」の數の半分に當つてゐる。

この外には、舊來からの長唄、三味線、謡曲から琵琶なども可成りある。その外には常磐津、義太夫、清元などいふ艶物もあり、尺八もあるといふ工合、實に千差萬別である。この外に單に聲樂といふのもあつた。

この音樂を業務別に見ると、事務員がやはり群を抜いてゐる。これは女工に比較して約三倍である。

四 稽古、娛樂——稽古ごとでは、從來からの生花、茶の湯などが、その大部分を占める。この外に書道や料理がある。數學や珠算といふのがあるが、これは趣味とすべく餘りにも味け無いことであらう。

娛樂の王座を占めるもの、それは何といつても映畫と觀劇である。

映畫はまことに現代職業婦人の娛樂の世界に君臨してゐるものである。これは實に「讀書」に次ぐ數を占めてゐる。後に述ぶるところの休日利用法を見ても、外出では映畫見物が一番である。といふことからしても、まことに動かし難い事實である。實にシネマ狂時代といふべきである。

業務別に觀たる映畫見物の割合

| | 映畫見物 | 割合 |
|-------|--------------|------|
| 女工 | 六四九 一、六一六 | 六・四 |
| 事務員 | 七〇三 一、〇九 | 一・〇四 |
| 店員 | 七六五 一、七一 | 一・五八 |
| タイピスト | 二〇六 一、〇九 | 一・〇九 |
| 食堂給仕 | 一三六 一、三六 | 一・三六 |
| 交換役 | 一一二 一、一六 | 一・一六 |
| 婦人 | 三 | 三 |
| 合計 | 二七四 二、七四 | 二・七四 |

映畫見物をば、業務別に觀るならば上の如くになる。

これによつてみると、娛樂延總數に對する映畫の割合が一番多いのは女工である。一寸注意すべきところではないか。その割合は二割八分餘である。その次が食堂給仕、店員となる。事務員、タイピストの各々はそれよりも少い。もつともタイピストを事務員に含めれば、女工よりも遙かに多い。これはまたもつともな事であらう。

しかるに雑役婦では、流石に少いではないか。年のせいもあらうけれども、とも角もそれだけの餘裕が無いのだといふことを如實に示してゐる。

映畫の外には、ダンス(三十人)や麻雀(十人)がある。いかにも新しいところを見せてゐる。けれども、また一方では浪花節や民謡、俚謡といふのもある。浪花節では、その大部分が女工と雑役婦であるといふも面白い。

五 運動——運動では、まづ散歩、郊外散策などがその大部分を占めてゐるが、旅行に次いで園藝などが多い。登山、水泳、ピンポン、乗馬、スキーや見物では野球、ラグビーなどもある。すべて一渡りはあるものと見える。
歸宅、設計等々。
まるで玩具箱をひつくり返へした様だ。

この外には特殊のものがたくさんにある。何れともつかないものであるが、一興と思つて左に列舉して見よう。
洗濯、座禪、子供と遊ぶ、寺院、教會出入、小鳥、食道樂、切り抜、飼犬、貯金、朝寝、飲酒、入浴、座談、訪問、歸宅、設計等々。
なほこの外に、「無趣味」——とあつさり投げ出してゐるもの、「餘裕無し」とすねるもの等々である。

第八節 信 仰

一 信仰の種々相——記入をしなかつたものや、信仰の不明なものを除いた總數一萬四千七百六十九人の中で「信仰無し」と明かに回答をなしたものは全體の半分を越える。その割合は五割三分である。

その残りの一割三分ばかりのうち、半分以上が神教で、残りの六分が基督教といふ割合になつてゐる。

婦人從業者の信仰の種類

| 總 數 | 一四・七六九 | 100.00 | 基 督 教 | 八四二 | 五・七〇 |
|-----|--------|--------|---------|-------|-------|
| 佛 教 | 四、八九四 | 三三・一四 | 信 仰 な し | 七、八九四 | 五三・四五 |
| 神 教 | 一、一三九 | 七・七一 | | | |

これを除いたもので、何か信仰のあるといふものに就いて見ると、いはゆる三大宗教のうちで一番多いものは何といつても佛教である。全體の三割三分を占める。その數四千八百九十四人。

三大宗教中の主なるもの

| (佛 教) | 佛教とのみ記入 | 四・三八二 |
|-------|---------|-------|
| 日蓮宗 | | 二七五 |
| 眞言宗 | | 六九 |
| 淨土宗 | | 五四 |
| (神 教) | 神道とのみ記入 | 四一 |
| | | 八五 |

天理教
金光教
御嶽教
基督教とのみ記入

佛教の中には、なほこの外に禪宗(曹洞、臨濟)淨土から佛理の各宗派にも及んでゐる。

神教の中では、この外に黒住、大本・修成の各教から明道會まである。

一庶民的信仰——こゝに一言すべきは、坊間に流行する庶民的信仰である。例へば、佛教關係では不動尊、お稻荷様、觀世音、大師様や鬼子母神などである。また神教關係では水天宮といふのが一人。これは女中さんである。

庶民的信仰

- 不動尊
稻荷

觀世音
（店員）
二（女中、女工）
二（女工）

| | | |
|---------|-----|--------|
| 二、神教關係 | 水天宮 | 一（女中） |
| 三、自然物崇拜 | 太陽 | 一（事務員） |

月
なほこれ以外にも「神、佛」と單に記入したものが、二百四十五人からある。これは恐らく普通の家では神棚と佛壇と

別に観てみよう。

上表を見ると、信仰なきものを別とすれば、概して佛教が一番多い。その次が神教といふわけであるが、事務員とタイピストだけは、佛教の次が基督教となつてゐるといふことは面白い現象である。

日曜日や公休日が来ると、彼女らは何をして暮すであらぶか。

第九節 休日の利用方法

この調査の結果によると、大體に於いて家に在つて家の手傳や雑用をなすかの如くである。すなはち一般に「家の手傳」といふのがその大部分である。具體的に見るならば裁縫が一番である。

外出では、一番多いのが映畫見物である。休日利用延總數の一割二分に當り、全體の第三位を占むるとは驚くべきではないか。

先きに述べた趣味の項に於いても既に知られる通りに、映畫は正に現代大衆娛樂の王座を占めてゐる。

外出でその次に位するものは、散歩と訪問、觀劇などである。

音樂の百三十人は案外に多い。また教會、社寺に行くものは百三十二人であるのは、二萬餘りの延人員としては、これは少い。

左に、休日利用法の主なるものを、實數順に列舉してみよう。

| 休日利用法の主なるもの | | | |
|-------------|---------|--------|------|
| 延 数 | 割 合 | 延 数 | 割 合 |
| 一九、六七一 | 100.00% | 訪 問 | 三一九 |
| 八、三八五 | 四二・六二 | 觀 劇 | 二八一 |
| 二、四七〇 | 一二・五六 | 諸 稽 古 | 二二六 |
| 二、二九六 | 一一・六七 | 旅 行 | 一四五 |
| 一、七八二 | 九・〇六 | 教會社寺參り | 一三二 |
| 一、六三二 | 八・二九 | 音 樂 | 一三一 |
| 八九七 | 四・五六 | 其 の 他 | 九七五 |
| | | | 四・九七 |

第二章 勤務に關する事項

第一節 就職の方法

職業婦人は如何なる方法によつて、家庭より社會へ巢立つて行くか。その多くは父兄、親戚或ひは知人の關係を頼つて就職したもので、總數一萬五千百八十三人中の六割六分、即ち一萬二十七人に上つてゐる。これは社會施設の如何によるもので、一般家庭から社會へといふ時は、先づ手近の父兄又は親戚知人をその踏臺とすることが何より容易であり、且効果的だからである。この約半數を占める者は女工で四千百七十一人であるが、これを女工總數四千九百八人（不明及び記入なしを含まず）に比較するとその約八割五分に當つてゐて、その比率に於いて壓倒的多數にあることは注目に値する。これに次では

| 職業紹介所 | 紹介方法 | 総数 | 割合 | 実数 | 割合 |
|-------------|---------|-------|-------|-------|-------|
| 父兄又ハ親戚知人ノ紹介 | 校前學校ノ紹介 | 二萬一千 | 一〇・〇八 | 一〇,〇七 | 一〇・〇八 |
| 職業紹介所ノ紹介 | 勤務先ノ紹介 | 二、四七〇 | 二・一〇 | 一、〇五七 | 一・〇五七 |
| 口募集 | 屋入廣面談告白 | 一、四七六 | 一・〇七 | 六・〇三 | 六・〇三 |
| 直募集 | 面廣 | 一、四七六 | 一・〇七 | 六・〇三 | 六・〇三 |
| | | 四七一 | 一・〇七 | 一、四七一 | 一・〇七 |

それに次では食堂給仕の百二十九人、一般給仕の六十八人が多い。中で目立つるのは製圖手であつて、學校紹介の二十一人は他のすべてに於いて最も多數を占めてゐる父兄親戚及び知人の紹介を凌駕してゐる事である。これも職業の性質上然るものであらう。次は募集廣告の一千四百七十五人で、この大多數は三百九十五人の女工及び三百十四人の店員で、これに

次では二百八十八人の事務員である。タイピスト、交換手、一般給仕、食堂給仕、案内人及びステーデダンサーは殆ど同數であつて、ステーデダンサーの六十八人中五十人の廣告募集があるのはこれもその職業の性質上からである。

職業紹介所は近年に至つてその利用が一般に普及したものであるが、一千二十五人は第四位にあつて漸次增加の趨勢にあることは否まらない事實である。この中で最も多きは店員の四百十五人であるが、食堂給仕の七百二十八人中二百人は比率の上で非常に大きいことはこれらの店員、給仕、接待係等は別に教養がなくとも、従つて誰にでも出来るからである。この點よりすると特殊の技能あるものや比較的高級の素養あるものは、職業紹介所の手を藉りなくとも社會がこれを容れるに充分な餘地を有するものと見ることが出来る。直接面談が四百七十一人あることは、調査票に記入してある通りをとつたもので、この中には或ひは募集廣告によつたものも含まれてゐるであらうが、その過半數を占むる女工にはこの様な就職方法も未だに許されてゐると見るべきであらう。

前勤務先よりの紹介といふものが二十六人あるが、これは電話交換手に一番多く、明らかに遞信關係の役所に勤務してゐたものが、その紹介によつて民間會社へ勤める様になつたものと見ることが出来る。尙一般民間の職業紹介所ともいふべき口入屋は漸次都會地からは影を潜める傾向を有してゐて、従つてこれに依つたものは僅かに十八人を数へるのみでこれに代る官公立若しくは信用すべき團體による職業紹介所の擡頭することを見遁すことが出来ないであらう。

業務別に觀た就職の方法

| 就職ノ方法 | 業務別 | 女工 | 事務員 | 店員 | タイピ | 交換手 | 電話 | 給仕 | 食堂 | 製圖手 | 掃除婦 | 雜役婦 |
|-------------|-----|-----|------|------|------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 總 | | 四〇八 | 三一三 | 二三五 | 一〇六 | 六三 | 三六 | 四 | 三六 | 一〇 | | |
| 父兄又ハ親戚知人ノ紹介 | | 四・七 | 一・七〇 | 一・四三 | 一・四三 | 一・三五 | 一・三五 | 二・八 | 二・八 | 一・〇 | | |
| 口入屋ノ紹介 | | 一 | 三 | 三 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | | |
| 募集廣告 | | 三五 | 二六 | 三四 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | | |
| 直接面談 | | 三五 | 三五 | 三五 | 一七 | 一七 | 一七 | 一七 | 一七 | 一七 | | |
| 直 接 面 談 | | 三五 | 三五 | 三五 | 一七 | 一七 | 一七 | 一七 | 一七 | 一七 | | |

第一節 就職年齢

| 年齢別 | 實數 | 割合 |
|--------|------|-----|
| 總 | 三五八六 | 一〇〇 |
| 一一三歳以下 | 一六六 | 一 |
| 一二三歳 | 四六二 | 一 |
| 一三三歳 | 四一六 | 一 |
| 一四三歳 | 四〇七 | 一 |
| 一五三歳 | 三九五 | 一 |
| 一六三歳 | 三五〇 | 一 |
| 一七三歳 | 三三五 | 一 |
| 一八三歳 | 三二二 | 一 |
| 一九三歳 | 三〇〇 | 一 |
| 二〇三歳 | 二九〇 | 一 |
| 二一三歳 | 二七〇 | 一 |
| 二二三歳 | 二五〇 | 一 |
| 二三三歳 | 二三〇 | 一 |
| 二四三歳 | 二一〇 | 一 |
| 二五三歳 | 一九〇 | 一 |
| 二六三歳 | 一七〇 | 一 |
| 二七三歳 | 一五〇 | 一 |
| 二八三歳 | 一三〇 | 一 |
| 二九三歳 | 一一〇 | 一 |
| 三〇三歳 | 九〇 | 一 |
| 三一三歳 | 七〇 | 一 |
| 三二三歳 | 五〇 | 一 |
| 三三三歳 | 三〇 | 一 |
| 三四三歳 | 一〇 | 一 |
| 三五三歳 | 一 | 一 |

然らば彼女等が職業戰線への巢立ちは何歳位であらうか。調査總數一萬五千八百九十六人中、十四歳乃至十九歳で初めて職業に就いた者が大多數で、總數の七割三分を占め、一萬一千五百九十三人である。その中十四歳乃至十六歳は尋常小学校及高等小學校卒業の年齢であり、十七歳乃至十九歳は大體に於いて女學校卒業年齡であつて、前者は六千七百八十二人、總數の四割三分、後者は四千八百十一人で三割に當つてゐる。

この點より見ても未だに女學校卒業者よりも、小學校卒業者の方が遙かに多く、職業婦人の教育程度もあまり高いといふことは出來ない。しかし女工の如く學歴を大して要しないものもあるから、高きを望むも不可能であらう。

未だいとけない十四歳乃至十六歳のものゝ最も多いのは女工の二千四百二十八人で、それに次では事務員の一千二百四十三人、店員の一千三十七人であり、

給仕、交換手、食堂給仕等がこれに次ぐ。乙女盛りの十七歳から十九歳即ち女學校卒業の年齢に至ると断然多くなるのは事務員の一千七百二十五人であつて、小學校卒業年齢のものより五百人近く多く、特殊の職業としてタイピストはこの女學校卒業年齢に於いて五百十七人の多數に上つてゐる。女工、店員の九百人以上と電話交換手の二百十三人とを除けば百人以上のものは一つもない。この年頃で就職する者の希望方面が自づから限られて、智能的又は技術的方面となつてゐるのは當然である。

二十歳から二十二歳、二十三歳から二十五歳の花なれば盛りの年頃で、はじめて職業を持つといふのは何故か？ 或ひは事務員（六百三十一人）なり、タイピスト（三百二十五人）なりの智能的な職業分野に於いては、専門學校を卒業するにその年齢に達する事もあるけれど、女工の七百二十七人及び店員の二百七十三人に至つては、近來の不景氣の爲め農工商各産業を通じて萎微したる結果は家計不如意となり、か弱き女の細腕に幾分の生計補助を受くるが如き悲惨なる半面を示すものではないか。

二十六歳以上になつては流石にその數比較的少く、主として氣の毒な寡婦に多いのは當然であらう。四十路を過ぎて職業戦線に活躍する婦人を見ることは如何に多難な人生の行路とはいへ一掬同情の涙をそゝるものがある。しかも女工一百六十四人、掃除婦七十四人、雜役婦六十七人の多數のあることは識者の考慮を要する點ではなからうか。

又十三歳以下で職業についた可憐な少女は五百四十五人であるが、その大部分は女工で三百四十六人を数へ、その他給仕四十人、電話交換手三十八人、店員及び食堂給仕が各三十七人ある。

業務別に觀たる最初の就職年齢

| 業務別 | 總數 | 年齢 | | | | | | | | | |
|-------|--------|------|-----|-----|------|------|------|-----|------|------|-----|
| | | 三才以下 | 四一六 | 五一九 | 三〇一三 | 三一三五 | 二六一〇 | 三一五 | 三六一四 | 四一五〇 | 五〇 |
| 女工 | 五百三十一人 | 五〇 | 一〇六 | 一〇六 | 一〇六 | 一〇六 | 一〇六 | 一〇六 | 一〇六 | 一〇六 | 一〇六 |
| 事務員 | 二三一 | 一〇一 | 一〇一 | 一〇一 | 一〇一 | 一〇一 | 一〇一 | 一〇一 | 一〇一 | 一〇一 | 一〇一 |
| 店員 | 二三八 | 一〇〇 | 一〇〇 | 一〇〇 | 一〇〇 | 一〇〇 | 一〇〇 | 一〇〇 | 一〇〇 | 一〇〇 | 一〇〇 |
| タイピスト | 一〇〇 | 六 | 一〇〇 | 五七 | 五七 | 五七 | 五七 | 五七 | 五七 | 五七 | 五七 |
| 電話交換手 | 八一 | 元 | 五八 | 三三 | 四〇 | 二一 | 六 | 三 | 二 | 一 | 一 |
| 給仕 | 一〇一 | 四〇 | 四〇 | 四〇 | 四〇 | 四〇 | 四〇 | 四〇 | 四〇 | 四〇 | 四〇 |
| 食堂給仕 | 一〇一 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 |
| 案内係 | 一〇一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 掃除婦 | 三三 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 雜役婦 | 一六 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |

第二節 初任給

職業婦人は現在のところに勤めた時、その最初の給料は幾何であつたか？ 後述する様に今回の調査に於ては、總數の約七割までが勤務先を換へてゐるものである。従つてこの初任給とは彼女達が社會に出て初めて自己の汗によつて得た最初の給料と見ることが出来る。

しかば彼女達の汗の結晶は何程であつたか。

調査總數一萬五千六百十六人に就いて見るに、三十圓以下のものが最も多く、この人員は一萬三千三百二十九人で總數

任給はその八割五分が三十圓以下のものである。給仕及び食堂給仕は二十五圓以上の初任給者は前者に於いては總數五百九十五人中十九人後者に於いては七百十八人中五十四人に過ぎず、その殆んど全部が二十五圓以下といつても過言ではあるまい。これは一般に就職年齢低く學力及び技能を要せずして勤務出来るからであらう。

業務別に觀たる初任給

某婦人の多くは春秋に富める青春の人達である。しかもその就職の目的の多くは、結婚迄の道程を家計の補助に、結婚の準備乃至は自己の修養の爲めに働くものである以上、やがては家庭生活の營みに歸つて行くといふことは當然すぎることで、婦人の職業的獨立と結婚問題とは今後に残された大きな社會的問題といつても過言ではなからう。

第四節 勤 續 年 限

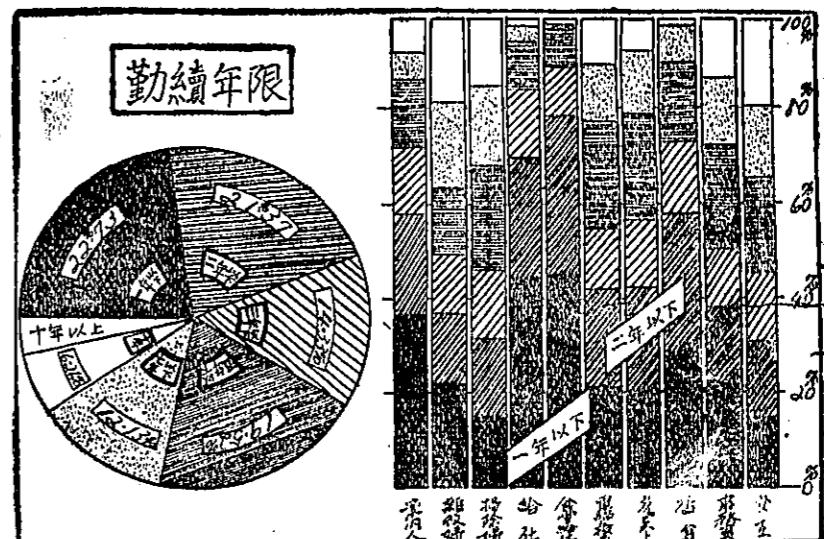
職業婦人の勤続性は何の位あるか？ 職業婦人の多くは春秋に富める青春の人達である。しかし多くの京職の上級職員は、吉賀正の道程を家計の補助にて、結婚の準備乃至は自己の修養の爲めに

婦人の多くは春秋に富める青春の人達である。しかし、その就職の問題は、結婚迄の道程を家計の補助に、結婚の準備乃至は自己の修養の爲めに働くものである以上、やがては家庭生活の營みに歸つて行くといふことは當然すぎることで、婦人の職業的獨立と結婚問題とは今後に残された大きな社會的問題といつても過言ではなからう。

會的問題」といって、通じて「人間問題」別編に述ぶる如く、雇主の側から觀た婦人從業者の缺點として擧げられた項目のうちで、「勤続年限が短い」といふのが最多數であり、他の項目に比して著しく目立つてゐるのはこの間の消息を雄辯に物語つてゐるものである。

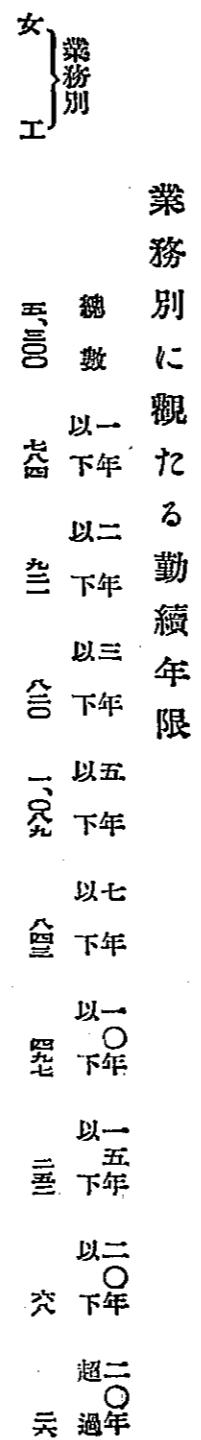
第二章 勤務に關する事項

九五



さて現在職業に從事してゐる婦人の勤続年限は一體どの位であるかといふに、三年以下のもので五割八分（九千三百四十六人）の多さに比し、六年以上のものは二割一分（三千五百二十七人）の少數であつて、十年を越えては五百八十五人、三分六厘強にしか達してゐない。これによつて見ても勤続性の乏しいといふことは婦人從業者の一大欠點で、五年を越える勤続者は一部少數者に限られてゐることがわかる。

もつとも中には十五年二十年を超える永勤者が無いではないが、その多くは有夫であるか或ひは夫に死別又は生別した氣の毒な人達であつて、職業別に見るときは、女工、事務員がその大多數である。



| 業務別 | 一年以下 | 二年以下 | 三年以下 | 四年以下 | 五年以下 | 六年以下 | 七年以下 | 八年以下 | 九年以下 | 一〇年以下 | 一一年以下 | 一二年以下 | 一三年以下 | 一四年以下 | 一五年以下 | 一六年以下 | 一七年以下 | 一八年以下 | 一九年以下 | 二〇年以下 | 超過 |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|
| 事務員 | 三七 | 一七 | 一六 | 一四 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一 |
| 女工 | 五九 | 二三 | 一九 | 一七 | 一六 | 一五 | 一四 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一 |
| 店員 | 一七 | 六三 | 一七 | 一六 | 一五 | 一四 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一 |
| タイピスト | 一四 | 三三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一 |
| 電話交換手 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一 |
| 給仕 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一 |
| 食堂給仕 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一 |
| 案内係 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一 |
| 掃除婦 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一 |
| 雜役婦 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一三 | 一 |

第五節 轉職度數

茲にいふ轉職とは勤務先を變へること即ち轉勤の意味をも含めてゐるのである。轉職するといふことは一面職業人自身の意志からであらうが、他面打續く不景氣から勤務先の事業整理、工場閉鎖等の爲め、已むを得ず轉職する場合も多かれうと思はれる。本調査總數一萬四千二百八十六人についてこれを見るに、その約七割、九千八百六十六人は一度もその勤務先を換へてゐないので、勤務先を換へたものでは一回のものが一番多く、一割八分、二千五百三十五人に及んでゐる。二回以上回数の多くなるに比して次第にその數を減じてゐるが、六回以上の轉勤者の二百名もあることは何か識者に考慮を促すものがありはしないであらうか。しかし、轉勤のレコードホルダーは十五回の女工一人であつて、十一回以上轉勤者三人は何れも女工である。この外目立つものは電話交換手で、一回も轉勤しない者は却つて一人もなく、しか